

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（12月分）

留学先：マカオ大学

氏名：坂井穂花

1年間の留学が終わったということで、この留学を通して変化したこと、成果について書きたいと思います。

私が留学前に設定した目標は、マカオでビジネス、観光学を身につけるという勉強に重きを置いた目標でしたが、早々から観光学関連の授業がうまく取れず、確実に単位交換ができそうな授業ばかり取ってしまい、安定を取る形となってしまいました。課題やテスト、プレゼンに追われる日々の中であまり町に出歩くこともできない、少し不自由な生活でした。私は何を目標に頑張っているのかわからなくなってしまったので、テストが終わるとともに留学の目標の視点を変えてみようと、授業ではすでに習っていたのですが、中国語（マンダリン）に力を入れて学び、マカオでの生活の中で日々英語ではなくマンダリンを極力使っていこうという目標を建てました。使っていくうちに通じないこともありましたが、通じることですごく新しい言語を話すことで喜びを覚え、自身につながっていきました。典型的な日本人顔である私は、見分けがつかず、頻繁にマカオ人・中国人に間違えられて中国語・広東語で話しかけられ、「自分は日本人なのに…」という葛藤があり、モヤモヤする時が多々ありました。しかし、英語だけでなく、わずかではありますが広東語、自学で身につけたマンダリンと

いう引き出しを増やすことで自信がつき、中国人・マカオ人に間違えられてもモヤモヤすることがなくなりました。これは間違えられることに慣れたからというのがありますが、マンダリンを学ぶにつれて中国に対して以前まで持っていた固定観念が払しょくされ、中国に対して親しみやすく感じるようになり、今までとは逆により中国語に触れていたいと思うようになったからです。この、中国語学力の向上という新たな目標を掲げるにあたって、すべては独学（授業が取れなかったため）であったため、何か一つモチベーションとなるちょっとした目標・指標が必要だと思い、11月に上海で中国語検定を受けました。HSKではなく中国語検定を選んだ理由は特になく、しいて言えば将来日本で働きながら中国語を使いたいと思うので、中国で働く場合に有利なHSKよりも中国語検定を受験しました。それまで上海に旅行したことがなかったので、少し留学最後の旅行がてらに受けに行きました。行ってみると上海は想像以上に経済発展がすさまじく、都市部と伝統的要素が残っているその周辺があり、伝統的要素が集まる観光地には中国語の店名であふれており、目に入るたび読み方を知りたくなるような感じでものすごく感化されました。公共交通機関の発達も想像以上だったので、この受験に行くことでますます中国語を学ぶモチベーションにつながりました。日本に居て中国の情報を得るには、受け身ではニュースからの情報が多くい上に、あまり良い印象のものが少ないので、ネガティブなイメージ、抵抗が付きやすいのですが、こうして自分でマンダリンを学び、現地へ赴くことで印象ががらりと変わ

り、「まさに百聞は一見に如かず」とはこのことをいうのだと強く実感しました。中国語検定は3級を受け、無事合格に至ったので、さらなる高みを目指して、1年以内に2級を目指すという新たな目標も立てることができました。

マカオ大学に留学している日本人留学生は15人ほどで、何かと集まったり一緒に行動することが多く、誘われることも多かったのですが、私はあまり親しくのいない大人数と行動するのが苦手だったので、基本は一人行動で、たまにマカオ人・中国人の友達と行動するようにしていました。さらに、日本に居る友達とかなりの長期間距離を置くことで、一時帰国した際に連絡を取ってくれる人、会ってくれる人、喜んで応援してくれる人が目に見えて、いい意味で友達をふるいにかけることができたと思います。そして、連絡を常にとることも大事ですがきっぱり連絡を絶ってみるのもどれだけ支えになっているか、大事さが分かるので一定の距離間を保つのが重要だと思いました。留学の初番で悩んだ時には、日本に居る友達よりも留学経験のある先輩、もしくは留学中の友達に相談することで、たとえ仲の良い友達だとしてもわからないことがあるので、わかる人だけに分かってもらえればそれでいいという考え方に変わりました。ルームメイトとは前期も後期も合う方ではなかったので、これっきりの付き合いだと思い、気遣いにも限界があるので、自分の思うような暮らしを心掛けて精神を保っていました。そして私は実家暮らしで20年間家族と暮らしてきたので、初めの半年はホームシックが強かったのですが、半年で慣れて、電話の回数も減りました。自

分の身の回りのことももちろん自分でするようになり、精神的にも自立することができ  
るようになってと思います。

留学を終えて帰国し、気づいたことは、自分の意見をはっきり言うようになったとい  
うことです。今までは「自分なんて…」後ろに引いていたのですが、これは自分自身  
に自信を持てるようになったということで、留学を通して自分への変化が分かったか  
らこそ、さらに1年間の留学を達成したからこそついた自信だったり、アイデンティ  
ティだと思うので、留学をしてよかったなとつくづく思います。そして最後に、留学  
前からお世話になっていた国際課の担当の方々、応援して待っていてくれた友達・家  
族に感謝させていただき、この留学をこれからの人生の糧にしていきたいと思いま  
す。 ↓2018年1月1日発行の限定10mop紙幣

